

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

駅家中学校区	校番 61	福山市立駅家西小学校
最終更新日	2025年(令和7年)4月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 各学校が特色ある教育活動を推進している。活動のねらいや内容も明確となっている。今後も学校と地域がより連携し、地域人材の活用、地域貢献等、地域の教育力を活かしながら児童生徒の主体的な探究学習を推進してほしい。	児童生徒の現状 ○全国学力調査では、全国平均を下回っている。低学力の子が多く、学力定着に課題がある。 ○児童生徒は地域への愛着があり、地域の方々との交流や地域貢献活動に意欲的に取り組むことができる。	育成する資質・能力 〈中学校〉 思考力 コミュニケーション力・協調性 意志決定力・志 〈小学校〉 課題発見・解決力 コミュニケーション力 挑戦する力	めざす子ども像(義務教育修了時の姿) ○日常生活の中に課題を見つけ出し、自分の知識を総動員して答えを導き出す。 ○他者との関係を強制的に築きながら、自分の考えを発信し、仲間と課題解決する。 ○自分の人生を切り開き豊かな未来を創ろうと見通しや展望をもち自己決定する。 ○「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。 ・学力調査の分析から課題をつかみ具体的な手立てを研究し、授業改善を進める。 ・自分の考えや思いをもたせ、相互交流の中で考えや思いを深める、全員参加の授業づくりを目指す。
中学校区として統一した取組等			

III 自校

ミッション 希望ある未来、駅家・福山の担い手となる「生きる力」の育成		課題発見・解決力		コミュニケーション力		挑戦する力	
学校教育目標 確かな学力と豊かな感性に培い、仲間とともにやりぬく子どもの育成		めざす子ども像		めざす子ども像		めざす子ども像	
現状		1年		2年		3年	
〈児童生徒〉 ○振り返りの時間を確保することで、自分の思いや考えを言葉や文章で表現することができるようになってきた。 ○互いを理解し合い、思いやりのある言動が増えている。 ▲基礎学力をさらに定着させる必要がある。 ▲特別支援の観点から、通常学級において配慮が必要な児童への手立てが必要である。 〈授業〉 ○スキルタイムで基礎基本の力を高めることにより、自信をもって授業に取り組むことができるようになってきた。 ○問題との出会わせ方を工夫したり、個に応じた課題やめあてを設定したりして、学級全体で達成感が味わえるようにした。 ○児童が主体的に運動に取り組めるよう選択の場を設定したり、導入で児童につけたい力につながる運動遊びを取り入れることで、運動の課題に取り組む意欲付けができた。 ▲40%未満の児童理解を深め、個別最適な指導を行う。 ▲「えきにし授業モデル」を活用し、全員が学びに向かう授業づくりを行う。		○身近な問題に対して疑問をもち、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力 ○言葉・数・情報を用いて根拠をもって表現できる。		○自分の役割に責任をもつ力 ○自分の考えを伝える力 ○目と耳と心で聴くことができる。 ○言葉・数・情報を用いて根拠をもって表現できる。		○学級・学年や家族の一員であることを自覚し、主体的に学ぶ力 ○学校や地域の一員であることを自覚し、主体的に学んだりチャレンジしたりする力 ○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている。	
研究		教科等		算数 外国語		研究	
めざす授業の姿		主題・内容等		「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」 ～㊦らんでみよう! ㊧いてみよう! ㊨ってみよう! しんじあう友㊩ はっ㊪んしよう!～ 全員参加の授業づくりに向けての教材研究		めざす授業の姿	
				全員が学びに向かう授業		子ども達が自分の考えをもち、自分なりの方法で表現している授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家西小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	〇 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	〇 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	主体的で対話 的な学びを通 じた学力の定 着	★	見 直 し	対話を通して協 同的な学びにな るよう、粘り強 く学び続ける授 業づくりと学力 向上	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が 当事者意識を もてる授業に していくこと で、必然的に 対話が生ま れ、自分なり の方法で表現 したいと思え る授業展開を 目指す。その ために、45 分の中で3回以 上はペアトー クを入れるこ とで、全員が 参加にする。 学力の定着 を図るため に、どの学級 でもスキルタ イムで復習等 に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケー ト「自分の考えを みんなに伝えて います。」 <u>肯定的評価 85%以上</u> ・算数科の知識・ 技能において、単 元テストの結果 が 40%未満の 児童 20%未満 									
3	児童がいきい きと学べる学 校づくり		継 続	児童の自己肯定 感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の振り 返りカードを 実施し、保護者 からも児童に 対しての頑張 りを評価して もらい、学校と 家庭で肯定的 な声掛けを行 っていく。(毎 月)・縦割り班 遊びや、縦割 り班掃除を 実施すること で異学年交流 の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート 「自分には良いと ころがある」 <u>肯定的評価85%以上</u> ・各月の振り返 りカードででき たことを確認し 、1つ以上チェ ックが付く児 童が95%以上 									

		見直し	体を動かすことの楽しさに気づき、自ら体づくりに取り組む態度の育成	導入での運動遊び(主運動に繋がる前段運動(高跳びの場合はスキップ鬼ごっこ等)や体づくりカード、体育館遊びなどを活用する。 職員の握力の記録掲示を継続して行うことで、目標をもって取り組むことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・握力の記録が県平均を超えている児童が83%以上(12項目中10項目達成する) ・児童アンケート「体を動かすことが楽しい」 肯定的評価88%以上 「体育の授業で自分の目標を決め、目標を達成できるよう取り組むことができた」 肯定的評価80%以上 													
3	保護者・地域に信頼される学校づくり	継続	地域の人材と協働した学校づくり	地域の人材を生かしたカリキュラムマネジメントを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子どもを駅家西小学校に通わせてよかったと思う」 肯定的評価95%以上 ・各学年、年間3回以上は地域の人材を生かしたカリキュラムマネジメントを行う。 													
3	教職員が元気で、児童に向き合える学校づくり	継続	授業づくりのための時間の確保	月に2回、学年会を設定し、主体的な学びに向けた教材研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケート「子ども主体の授業づくりにチャレンジしている。」 肯定的評価90%以上 													

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。